

創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
中間評価報告書

研究開発課題名	科学的根拠に基づく高品質生薬の国内栽培拡大に向けた参加型研究開発
代表機関名	国立大学法人東京農工大学
研究開発代表者名	山田 祐彰
全研究開発期間	令和3年度 ～ 令和7年度（予定）

1. 研究開発成果（公開用）

中間報告書（下 URL）参照

<https://www.amed.go.jp/content/000120240.pdf>

2. 総合評価

- ・良い

【評価コメント】

「科学的根拠に基づく高品質生薬の国内栽培拡大」のため、薬用植物栽培に農学的視点による現場主義的アプローチを活かし、全国規模で多くの生産者を巻き込み参加型研究開発活動を展開している。薬用植物栽培の専門家や各地実証試験圃場周辺の生産協力者との意見交換を活発に行い、一定の進捗が得られている。今後、自然科学的な検証に加え、農業経営経済的観点も踏まえ、着実に薬用植物国内栽培化に貢献していただきたい。

本事業の目的に則し、実証試験圃場での参加型研究開発の最終到達目標を再確認し、薬用植物国内栽培化に向けて、連携体制の選択と集中を図ること。その上で、品質向上・品質維持に向けた具体的数値目標（品質、収量など）を達成するため、経験に基づいた鑑別学的な品質評価が薬学的な成分分析による品質評価に反映される総合評価へと改善できるように、各専門家との意見疎通を図り、その成果に基づいて栽培化検討を深化させること。「自動環境計測装置データ解析による栽培モデル開発」は、各地での最適な栽培方法の確立を行うだけでなく、他の薬用植物への応用展開も視野に、その有益性も検証すること。さらに、アカデミアによる研究成果を実証試験圃場で展開するためにも、研究者間及び生産者間の情報共有も含め、研究成果を分野横断的に整理統合させ、アウトリーチ活動にも力を入れ、成果の最大化に努めること。

以上

